



第 23 号

発行  
富士市消防団

富士市永田町1丁目100番地  
電話(0545)55-2851  
(0545)55-2852  
FAX(0545)53-4633

年頭にあたり



富士市消防団

副団長 加藤秋徳



新春を飾る平成二十五年富士市消防出初式にあたり、総指揮者の大役を仰せつかり、不安と緊張の中日を迎えました。天候にも恵まれ、何とか大役を全うする事が出来ました。やはり消防団にとつては、「一年の計は出初式にあり」と言っても過言ではないと思います。

団員の整列している姿を見ると、また一段と気の引き締まる思いが増しました。一昨年の東日本大震災で多くの消防団員、消防職員等は危険が迫るなか、避難誘導、救助、消火など懸命な活動を続け多数の住民の生命を救いました。

しかしその過程で、二三人という極めて多くの殉職者が生じるといふ痛恨極まる事態となりました。

消防団員としての責任が犠牲の要因になった事も否定できません。しかし、あくまでも自分自身の安全確保が第一だという事を改めて強く考えさせられました。今、消防団の抱えている難題は、なんと云っても団員の減少問題、団員の確保が難しい状況になっています。若者層のボランティア精神が薄れているのも一つの原因ではないでしょうか。

私は、消防団に入り大勢の方々ともぐり逢えた事で、人生観が豊になりました。



消防団は、「住民の生命と財産を守る」という大義があり、地域にとってはなくてはならない存在として認識されています。仕事をしながらのボランティア活動は確かに大変だと思えます。しかし、家族の理解と協力が直層の家族との絆を深めてくれる事も忘れてはならないものです。勇気あるより多くの団員が増えることを祈っています。



議長賞「出初式の華」萩田 長蔵

平成25年  
富士市消防出初式  
写真コンテスト



消防団長賞「頭中」小林 康男



防火協会会長賞  
「この町は俺達が守る。」青木 俊文



市長賞「オープニング」遠藤 徹



消防長賞「救出」大竹 康江

# 富士市消防団訓練礼式 並びに消防操法訓練大会

平成24年9月30日(日) 富士市公設地方卸売市場



平成二十四年九月三十日に富士市消防操法訓練大会が行われました。

消防団に入団して十数年経ち、小型ポンプ操法の要員、訓練礼式の列員として、出場した経験はありましたが、今回、初めてポンプ車操法の指揮者としての出場だったために、とても不安でした。指揮者としての号令を覚える事から始まり、基本動作、立ち位置、節度、踵の位置など、覚える事で精一杯でした。最初の内は週二回の訓練で、自分の事だけで余裕など微塵もありませんでした。やり始めて二ヶ月位してくると徐々に操法らしくなり、訓練する時に各自で注意しあい、助け合いながら、指揮者としても余裕が出てくるように感じました。訓練大会に向けて自主訓練も継続しながら、オーバーワークにならないよう調整しながら訓練してきました。

## 「富士市消防操法訓練大会」 第22分団 班長 木伏 孝文



訓練大会当日です。訓練礼式から始まり小型ポンプ操法、ポンプ車操法の順番で進行していき、我々二十二分団はおとりの演技となり、自分自身では待ち時間が長すぎて少々疲れてしまい、緊張感さえ薄れていきましたが、いざ演技の開始になったら、今まで訓練してきた成果の発揮どころか思い頑張りました。我が二十二分団も多少のミスはありましたが、結果は見事優勝でした。

最後に共に苦勞を分かち合えた要員には、感謝の気持ちで一杯です。有難う御座いました。応援して下さいました分団ならびに、方面隊の皆様、また熱心にご指導下さいました指導員の皆様、本当に有難う御座いました。

## 「訓練礼式査閲大会」 第24分団 班長 志村 真和



「集まれ！」指揮者の号令で始まった礼式大会も、何度かの出場経験があり、程良い緊張感の中、競技する事が出来ました。

私の受け持った左翼は、隊全体の動きを左右する重要な役割があり、競技が終わった時は、競技の結果よりも、その重圧からの開放感と自分なりに精一杯出来た事への達成感で一杯でした。

開始前に見学した他の方面隊が、どこも自分達より上手で少し自信の無いまま競技がスタートし、まさか優勝出来るとは思っておらず、結果を聞いた後も信じられませんでした。思えば約三ヶ月前から始まった大会に向けた訓練で、最初はバラバラだった隊が、指導員の方々の熱心な指導のお陰で、少しずつまとまる様になり、改めて指導員の方々の凄さを実感しました。

消防団員としてはまだまだ未熟者ですが、今回の貴重な経験を今後の活動にも活かしていきたいと思えます。

最後に、共に苦勞し優勝の喜びを分かち合う事が出来た指揮者、選手の皆様、多忙の中熱心に御指導下さった指導員の皆様、少ない人数の中応援下さった各分団、方面隊の皆様、本当にありがとうございました。



### 平成25年度大会予定

富士支部消防団員消防操法及び訓練礼式査閲大会

開催日 平成25年7月7日(日)  
場所 富士宮市芝川スポーツ広場

第三十四回静岡県消防操法大会

開催日 平成25年9月8日(日)  
場所 静岡市静岡消防学校

### 「小型ポンプ操法の勲章」

第2分団 団員 池原 秀夫

春先、暖かくなる頃「優勝するぞ」の掛け声も勇ましく始めた小型ポンプ

練法の練習ではありましたが、日頃の運動不足が露呈、筋肉痛の足を引きずり練習へ。不健康極まりない生活を猛省させられる事となりました。私達消防団員の使命「地域の安全は我々が守る。」そんな、基本的な事さえも出来ない様な体力になっていた自分に呆れながらの訓練序盤でした。訓練が進むうち、分団長はじめ団員皆さんの毎回の献身的な支援や励ましに「消防団魂」「郷土愛護の精神」と消防使命を論され、私達の心中で訓練の重要さや消防団仲間への尊さが自覚できるようになり、訓練にも真剣さが出てきました。夏も盛りの頃には、だいぶ遅くなった我が身体、選手顔も精悍さが漂うようになって、よたよたチームから、地域の安全を守る精鋭チーム風に格上げ。そして、訓練大会優勝！

第2方面隊全団員の優勝旗です。私がこの大会で得た最高の勲章は、消防団員の絆だと思えます。

私の自慢のチームメイトからのコメントを紹介します。

一番員 羽田晋康 (二分団)

この度、優勝する事が出来たのは、選手個人の努力よりも、指導員による指導と、団員皆さんにサポートしていただき、私達選手が何回も繰り返し練習する事が出来たからだ、心から感謝します。今回の訓練で身に付いたスキルは火災出場と後輩の指導に活かして行きたいです。

二番員 久保田道雄 (二十五分団)

二番員の私の最も重要な仕事、吸管伸

長から吸管水槽投入までの二十秒間、私は指導員、団員諸兄の皆さんに習ったことや、訓練してきた事だけを心がけて動きました。良い結果が出て嬉しく思います。ありがとうございます。

三番員 屋部倫人 (三分団)

まずは応援、指導いただいた全ての人に感謝の気持ちを伝えたい。「ありがとうございます。選手間で意思疎通が上手くいかずイライラした時もありました。練法のほんの一部ですが、初めて気持ちが伝わった後、自分の中で飛躍的に伸びた瞬間があり、その時は本当に嬉しかったです。このメンバーだったからこそ、自分が落ちて着いて練法が出来たと思います。

感謝の気持ちを優勝という最高の形で表す事ができたことが本当に良かったです。

補助員 大島裕稔 (二分団)

ご指導いただいた皆さんに感謝いたします。今後も活躍出来る様がんばりたいと思います。

最後にご支援ご指導いただいた皆さんに報いられるよう、私達はこれからも消防団魂の勲章を胸に精進していきたく思います。



### 「出初式」

第12分団 団員 秋山 浩三

平成二十五年一月十三日、富士市役所

にて消防出初式が行われました。私は消防団に入団後、今回で四度目の参加となります。今年も朝早くから制服・制帽・ネクタイ着用で、式典の準備です。市役所北側で多くの消防団員が準備をする中、よく耳にする言葉は「今年も寒いな」でした。式典中の天気は晴れでしたが、足元から伝わる寒さはいつもと変わらず、身体がガタガタする辛い寒さでした。

私には二人の子供がいます。出初式を見に来て「お父さん」と声をかけてくれました。他の団員の方々も、家族の方と話をしている姿を見かけました。

### 「夜警について」

第7分団 班長 勝又 裕

今年度も火災期特別警備の時季を迎えました。七分団の警備体制は班長を中心に五名を「グループ」とし、八グループで編成しています。

団員の職業も様々で、当番日に都合が悪い団員も少なくありません。その時には団員相互で調整しています。

昨年度の火災件数は減少したものの、十二月の火災件数は突出して大幅に増えてしまっています。

火災期特別警備は、地元から火災を起ささないとの思いで巡回しております。巡回では四トントンの大型ポンプ車輛では道幅いっぱいの順路があり、細心の注意で安全運転を心掛けています。



消防団員は仕事や家庭を持つ中、団員としての役割を果たしているのだと改めて感じました。一月に入って冬季活動の夜警を行っています。



巡回中には時折、近所の子供達が手を振ってくれたり「頑張つて」と応援されると益々、地域住民の生命と財産を守る為に火災を未然に防ごうという気持ちが高まります。

我々の活動が地域住民の為に少しでも役に立っている事を感じ、巡回を頑張りたいと思います。



地域の方々にも防災意識を高めていただきたいと思えます。安全な地域になるように、今年も消防団の一員として、頑張ろうと思えます。



第28分団 分団長 望月 幸博

一月から二月は、富士市消防団では、夜警が行われています。

夜八時から十一時まで詰所に待機し、消防車による担当地域のパトロールを行っています。地域住民の方が消防車を見て「ああ、火事には気をつけな」と思っていたら、火災予防に貢献できればいいなと思えます。

最近では、消防団の団員構成も会社員が増え、交代勤務者も多くなり、一か月以上続く夜警は、団員はもちろん、家族の皆様にも相当の負担をかけていると思えます。分団長として、団員家族の皆様には感謝しております。

「夜、消防車で回っているよね。ご苦労様。」と暖かい声を掛けてくださる方もいらつやいます。このように、活動を理解してくださる方も大勢います。これからも地域の防災に役立てるよう頑張っていきたいと思えます。



富士市消防団第二方面隊家族慰安旅行が十月十四日に開催されました。方面隊家族慰安旅行は、日頃の訓練や活動に協力いただいている団員とその家族への感謝を目的とし、四年に一度開催され、今回は東京デイズニerland及び大江戸温泉物語を目的地にしました。第二方面隊は、四・五・六・七・十二の五つの分団で組織され、今泉・原田・神戸・今宮・大淵地区を管轄しています。災害時に連携をとりますので、日頃の訓練も方面隊ごとに行われることがよくあります。

九月三十日に富士市公設市場で行われた「富士市消防団訓練礼式」並びに消防操法訓練大会」においても方面隊の代表として各隊員が参加しました。

第二方面隊  
家族慰安旅行

第4分団 団員 佐野 晶彦

大会に向けた訓練では約三か月間、週二回程度、夜二時間ほどですが、仕事の後や休日ということもあり、各家庭への負担も増します。家族の理解がなければ、消防団活動ができないことも事実です。

そんな中での家族慰安旅行で、東京デイズニerlandを訪れましたが、秋の行楽シーズンということで、大変混み合っていました。

家族慰安旅行に参加して

第8分団 団員家族 齊藤 あずさ

八月四日日曜日、待ちに待った富士急ハイランド旅行。高校生の兄は絶叫系マシンが大の苦手なので、富士急ハイランドやデイズニerlandには家族で行く事は無く、消防団の旅行は、数少ないチャンスなので、毎回とても楽しみにしています。

朝番にfuriyamaに乗り取手にしがみつきます。手が疲れてしまいました。休みながら、エヴァンゲリオンワールドを見て、カートウーニング、ハム太郎のフワフワお空の大冒険など、あまり並ばずに乗れる物をチョイスし、九十分待ちの絶望要塞に並んだ時は、友達とずつとしりとりをして過こしました。だんだん同じ事をくりかえしループして言うようになり、「よく覚えているね。」と突っ込まれました。(笑)



先日新聞で、期間の来場者数が過去最高を記録したと報じられていたのが納得です、すごい人出でした。大変疲れましたが、子供も喜び、家族で充実した時間を過ごすことができました。

家族や会社の理解がなければできない消防団活動ですが、災害や何かの時に地域や家族を守るよう活動していきたいと思っています。

午後一時半、遅い昼食を食べ、最後にゲゲゲの妖怪屋敷へ行き、全部で八つのアトラクションを楽しみました。

お土産屋さんでは、記念に戦国バサラの真田幸村のTシャツを買ってもらい、とても嬉しかったです。バスではドラえもん映画を観ながら帰りました。

最後に、旅行を企画していただきありがとうございました。



「かぞくいあん」

第24分団 団員家族 ざりゆう たくと

おとうさんとおかあさんというほうだんのりょうこうにいきました。ときすみかでははんをたくさんたべました。おいしかったです。

カブトムシのようちゆうをみつけました。なつにまたいきたいです。ボウリングもいきました。一かい目はおかあさんにかちました。うれしかったです。

UFOキャッチャーでしようほうだんのおにいさんにセサミストリートのんぎょうをとってもらいました。

さいごにゆうはんをたべてかえりました。

とてもたのしかったです。

富士市消防団協力事業所表示制度

事業所の消防団活動への協力が社会貢献として広く認められると同時に、事業所の協力を通じて、地域防災体制がより一層充実されることを目的とした制度で、複数の従業員を消防団員として入団させている事業所や、水火災等の災害時に事業所の資機材を消防団に提供するなど、消防団活動に積極的に協力している事業所その他の団体に対して、消防団協力事業所表示証を交付します。



また、認定を受けた事業所は、取得した消防団協力事業所表示証を敷地、建物等に表示できる他、パンフレット、チラシ、事業所ホームページ等にてPRすることができ、事業所のイメージアップにもつながります。

“あなたの「力」が必要です!!”  
消防団員募集

あなたの町を自らの手で守りませんか  
地域の「絆」で救われる命があります

[問合せ先]消防総務課消防団担当、  
または各消防分団  
電話：0545-55-2852 (消防総務課)

「消ぼつたん  
家ぞくいあん旅行」

第26分団 団員家族 目黒 亜門

十月二十八日、日曜日、山なしのワイン工場や、ぶどうがりに行きました。パパが消ぼつたんに入っているので、ぶんどん家ぞくいあん旅行に行きました。朝の六時三十分くらいに、二十六分たんの家ぞくいあん旅行にパパとおばあちゃんとおじいちゃんで行きました。

さいしよにわさびセンターに行きました。ゆっきを出してわさびをしよくしてみたら、とてもからかったです。お姉ちゃんがすきなのでほしぶどうを買って



もらいました。つぎにぶどうがりをしに行きました。ひるごはんはバーベキューをしておくとやさいを食べました。食べすぎてぶどうが入らないくらい食べました。そのあとぶどうがりをしました。でもおにくを食べすぎてあまりぶどうが食べられませんでした。もつと食べたかったです。

「第七方面隊  
家族慰安旅行」

第31分団 団員家族 高橋 伊吹

十一月十八日に、消防団の家族旅行で八景島シーパラダイスに行きました。天候も良く、十二月にしては暖かく旅行に行くには快適な日となりました。

シーパラダイスに着いてまず最初に、ジェットコースターにのりました。最初のゆくりあがつていく所が海の上になつていてとても景色が良くて感動していたら、急に落下していき、びつくりしました。一回のり終わった後、もう一度連続でお父さんへのろつと言つと、「気持ち悪いからやだ」と言われ、他にのりたと言つと、もう一度のちやいました。

そのあとは水族館へ行き、動物博士の智弘くんに説明を受けながらいろんな魚やアザラシ、ペンギンなどを見て回り、

ショーをやっていたので急いで見に行きました。ショーでは、イルカや大きなセイウチ、そしてめずらしい白イルカなどが楽しそうに演技していました。

お昼ご飯もバイキングの食べ放題でたくさん食べ、時間ぎりぎりまで遊んでしまったのでおみやげを買ったのが残念でしたが、皆でバスにのつて楽しく会話したり、はしゃぎながら行く旅行はとても楽しかったです。

次回の家族旅行にも絶対いきたいなあと思いました。



行政視察

平成24年10月19日(金)

団本部員と各分団長の行政視察を行いました。今回は、東京都の日本機械工業株式会社(消防自動車製造工場)を視察し消防車の製造工程やポンプの構造などを見ることが出来ました。



消防演習

平成24年11月9日(金)

富士市大淵

静岡県富士水泳場周辺にて消防団と消防署合同の訓練を行いました。出場分団：第3分団(伝法・日吉)、第5分団、第6分団、第12分団、第22分団、第25分団





十一月十日、消防まつりが開催されました。当日は、雨は降らなかつたものの天候が悪く寒い日となり、来場されるかたが少ないのではないかと心配をしましたが、大変多くのかたが来場され賑わいを見せていました。

第13分団 団員 小林 幸之助

「消防まつり」



消防団による分団単位の出店コーナーにおいては、各分団、採算を度外視した格安値での販売を行なっていたり、消防まつり限定の手作り品を販売している分団もあったりと、立ち寄られた方々には大好評で「毎年、出店を楽しみに来ているんですよ。」などと、おっしゃって買って帰られるかたも多くいました。私達十三分団は「揚げたてフライドポテト、昔懐かしい熱々パンかつ、優菓堂さんの手作りお菓子」などを出品し、こちらも好評で消防まつり終了時刻前には全て売り切れてしまっただけでした。体験コーナーでは「煙ハウス、応急救護」などを体験することができ、参加された方々には、改めて火災の怖さや命の大切さを実感していただけたのではないのでしょうか。消防まつりは秋の火災予防週間の二環として、毎年この時期に行われています。「消防本部によるミニ消防車試乗、協力団体様の各種模擬店、消防音楽隊の演奏、幼稚園児による演奏、災害体験コーナー、消防団による出店」など、非常に楽しい催し物が一杯ですので、また一度も訪れたことがないかたは是非足を運んでみてください。

今年も消防まつりが盛大に行われました。私達第十八分団では、今年もフライドポテトとエビセンを販売しました。特にフライドポテトはこだわって作り、来られた方がどうやらアツアツのポテトを食べられるか皆で考え、知恵を出し合い完売を目指しました。しかし、時間もお昼に近づく会場が人で溢れ出してきた頃にはポテトもエビセンも揚げる量など考へる場合ではなく揚げても揚げても間に合わないほどの大盛況でした。最後には終了予定時間よりも早い段階での店終い。あつという間の出来事でした。消防団員にとって消防団活動中での一致団結は当たり前ですが、この消

第18分団 団員 石田 彰

「消防まつり」



今日十一月十日、消防まつりが開かれました。僕は十分団に入って三年目が過ぎました。消防まつりは今回で三回目です。消防団に入る前は消防まつりには行ったことがありませんでした。初めて消防まつりに参加した時はこんなにも盛り上がりがあるとは思っていませんでした。会場には色々な展示、体験、子供コーナーが設けられ家族連れを中心に多くの市民が来場して楽しんでいました。まだ消防団に入る前に、自宅の前が火事になり、なにもできない自分がいてそれがまだ頭の中に残り悔しく思っています。

第10分団 団員 浅井 辰徳

「富士市消防まつり」



防まつりではまた違う雰囲気での団結・チームワークが図れる、また向上する場だと思えます。一般の方々に消防団をより「層理解して頂き、「入団したい」と思ってもらえるよう消防団活動に努めていきたいと思えます。



消防団に入つて数多くのことを学び、もつと自分を磨いて消防団員として誇れるように頑張っていきたいと思えます。

消防まつり出店コンクール

優秀分団

- 第11分団▷草もち
- 第2分団▷花、玩具
- 第14分団▷揚げたこ焼き、いか焼き
- 第4分団▷飲茶



防火ポスター優秀賞受賞者(中学生)



防火ポスター優秀賞受賞者(小学生)

「ポンプ車両への思い」

第3分団 班長 橋本 仁



皆様ご存知の通り、我が三分団は伝法地区・日吉(吉原)地区等をカバーするため、詰所二箇所・ポンプ車二車両を有しております。

一昨年度は伝法詰所を移転・新築し、今年度は日吉車両が新車両に更新するという機会に恵まれました。

現、日吉車両は、平成四年の夏頃に我が三分団へ配備され、二十年以上の期間を火災現場訓練・防災啓蒙活動等、地域の為に活躍していただきました。有難う御座いました。

本来ならば、十一月頃に新ポンプ車が配備・披露されてから、新旧車両への思い等を執筆する予定でしたが、諸事情により配備前の執筆となりました。



日本ドライケミカル株式会社にて撮影  
平成25年2月現在 只今製造中

桜が咲く頃には、無事に披露されているはずだ。

その為、新車両への熱い思いは、団員各々が語り合う事になります。

今後とも地区・地域・富士市の為、将来・未来の為に、防災啓蒙活動・消火活動に日々邁進していきたく思います。

「富士市総合防災訓練青葉台地区 会場型訓練に参加して」

第25分団 班長 岩間 清人



八月二十六日残暑厳しい中、平成二十四年度富士市総合防災訓練青葉台地区会場型訓練が、青葉台小学校グラウンドにて行われました。私の所属先である二

十五分団も参加しました。東海地震を想定した数々のプログラムやブースには、今まで体験したことのないものも含まれており、大変勉強になり、貴重な体験をさせていただきました。中でも要支援者支援体験ブースの災害支援キットの紹介・実用例に目を引ききました。これは災害時だけでなく一人暮らしのお年寄りの方が緊急時に、体の状態・病気がかりつけの病院・薬などの情報がすぐに第三者が知ることができ、すばやく対処するためのシステムです。このようなシステムが広く市内に普及すれば、より良い環境が作れるものだと感じました。

また二十五分団は、青葉台地域の方々と一緒にバケツリレーに参加しました。初期消火の必要性を再確認できたことや、協同作業によりコミュニケーションが弾み楽しく行うことができ、収穫のある一日となりました。



また二十五分団は、青葉台地域の方々と一緒にバケツリレーに参加しました。初期消火の必要性を再確認できたことや、協同作業によりコミュニケーションが弾み楽しく行うことができ、収穫のある一日となりました。

「新入団員として」

第15分団 団員 内田 恭兵



平成二十三年三月十一日は、日本中の人達にとって、そして私にとっても、「生忘れられない日となりました。」

その時自宅にいた私は、まさかあの地震で二万人以上の方がお亡くなりになったり行方不明になるとは思いもせませんでした。

次々に入ってくるニュースや映像は恐ろしく、日本はどうなってしまうのだろうと思っていました。

数日が経ち落ち着いたころ、みんなが助け合っている姿を見て「自分も何か出来ないだろうか?」と考えていました。ニュースの中で、自衛隊員・警察官・消防

隊員が被災された方たちを助けているのを見て感動しました。しかし、いざ人の役にたきたいと考えたものの、具体的にどうしたらいいか分からずじまいました。そうしているうちに、たまたま回覧板で、消防団員の募集をしていることを母に教えてもらいました。母は、人付き合いを広げることが出来るということで勧めてくれ、私にとっても、消防団は、震災以降に考えていたものにピッタリだと感じました。私は人付き合いが苦手な消防団の人達とうまく出来るか不安でしたが、十五分団の方々に入団するまえから大変気を使っていたいただき、スムーズに入団することが出来ました。



これから消防団員として地域に貢献できるように、活動をしていきたいと思えます。

「新入団員教育を終えて」

第29分団 団員 佐藤 裕一



五月二十七日、富士市役所にて新入団員教育が行われました。

午前は座学を中心に、団員としての基本の心得、過去の体験談を聞きました。過去の体験談では、火災の現場以外にも動物に対する出動などもあったようで、「ピツクリ」しました。

午後からは、外での訓練で、基礎となる規律のやり方を学びました。「右向け右」「左向け左」など、学生の時以来の動作に少し戸惑いましたが、指先やつま先の角度など細かい所を注意され気持ちよく引き締まりました。日常生活では味わえない緊張感もあり、良い経験ができました。この他に、ポンプ車の使用方法や



ホースの巻き方を学びました。実際の現場で活躍できるように、日々訓練を重ねていきたいと思えます。この日に学んだことを生かし、これからは消防団員として地域の役に立てる様に努力し、一件でも火災が減るようにしていきたいと思えます。

消防団員二十三年の思い出



富士市まとい会 会長 諸星光男

私は、消防団の心意気や郷土愛なる気持ちに芽生え、昭和三十八年に第七分団詰所の門を叩きました。しかし、分団長は入団を認めませんでした。

当時は、家の長男、又は区域内での作業に従事する人が入団の条件で、私は満たされていませんでした。諦めきれない私は、一年に渡りどうしても入団したいという気持ちで伝えました。

やがて熱意が通じ、昭和四十年四月一日、晴れて入団することができました。しかし、私が消防団の拜命を受けた当時は物資もまだ乏しく、先輩方も古い法被や外套を着まわし、新人の私には、ゴム長二つ支給されただけでした。その為、出初式には参加できず、車の窓からものかしい思いで見つめていた事が、いまだ記憶にあります。

富士市消防団長で、任期を終えた三十三年の消防団活動で、危険な経験も幾つもしました。その中でもっとも危険な思いをしたのが、宇東川製紙での消火活動中のことでした。

私は、電気も遮断された暗闇の中、かすかに浮かんだ足場めがけ飛び降りしました。しかし、そこは足場ではなく、貯蔵タンクに浮かぶ紙くずでした。腰まで貯蔵タンクの液体に浸かり、呆然としていた私に、製紙に知識のある先輩が「早く上

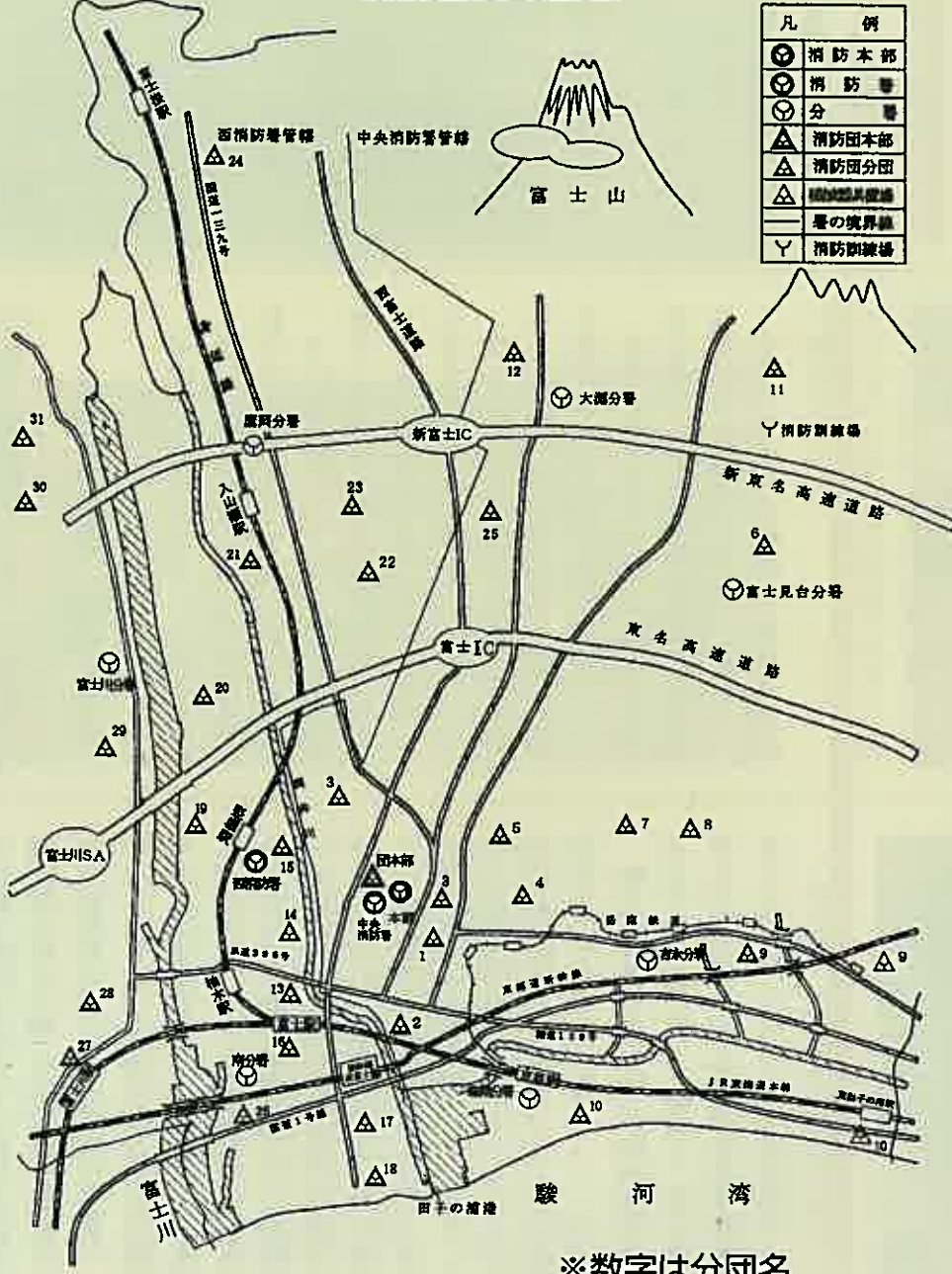
がつて体を流せー」と叫びました。血相を変えた先輩の顔を察知し、私は、真冬の松原川に飛び込みました。掛け付けた先輩が「体はどんなか?」と、心配そうに私の顔を覗き込みました。私が、飛び降りた貯蔵タンク内には、体の皮膚を溶かしてしまふ、苛性ソーダが並々と入っていました。今思うと、先輩の一言が無かつたら、苛性ソーダに浸かつた体を放置し、取り返しの付かない事となっていた事でしょう。そして、何よりも思い出に残っているのが、消防団員の経験を積み重ね、訓練ポンプ車指導員となり、富士市消防団大会優勝目指し、訓練に明け暮れた日々です。血の滲むような訓練を重ね、連続優勝十回という富士市消防団記録を作りま

した。私の厳しい訓練に耐え抜いた団員たちを、今でも誇りに思っています。何事も「一生懸命」物事に取り組めば、結果は付いてくると言う事を、いつも心の中で、自分に言い聞かせています。最後に、富士市まとい会は、会員相互の親睦を図ると共に、消防思考の普及に努め、もって地域社会に貢献する事を目的として結成されました。まとい会の年間行事としては、恒例の出初式、制服である法被姿は圧巻です。今後も、消防を応援し、まとい会として各種の消防防災行事に参加し、少しでも地域社会に貢献できるよう、頑張っていきます。

消防団の管轄地区

～富士市各地区で地域のため、消防団は活躍しています～

消防機関の配置



※数字は分団名

- 第1方面隊 (第1・2・3・25分団) 管轄地区  
▷吉原、伝法、広見、青葉台の一部
- 第2方面隊 (第4・5・6・7・12分団) 管轄地区  
▷今泉、原田、富士見台、神戸、青葉台の一部、大淵
- 第3方面隊 (第8・9・10・11分団) 管轄地区  
▷吉永、須津、浮島、元吉原、吉永北
- 第4方面隊 (第13・14・15・19・20分団) 管轄地区  
▷富士駅北1・2、富士北、岩松、岩松北
- 第5方面隊 (第16・17・18・26分団) 管轄地区  
▷富士駅南、田子浦、富士南
- 第6方面隊 (第21・22・23・24分団) 管轄地区  
▷鷹岡、天間、丘
- 第7方面隊 (第27・28・29・30・31分団) 管轄地区  
▷富士川、松野

編集後記

消防団だよりを発行するにあたり団員の皆様、団員ご家族の皆様より今年も多数の原稿をお寄せいただきことが出来ました。寄稿していただいた皆様には、厚くお礼申し上げます。皆様の原稿を拝読しまして、消防団活動に対する切実かつ熱心な姿勢、家族の皆様への心温まる気持ち、がひしと伝わってきました。

一年間を通じて、今年度もいろいろな行事がありました。その中でも平成二十五年度の支部・県大会につながる市操法大会が開催され、厳しい訓練により鍛え上げられた選手の皆様が、いまだ目に焼きついています。この消防団だよりが団員各位の意識の高揚と団結心が養われることを祈念すると共に、市民の皆様へ消防団活動を少しでも理解していただき、一人でも多くの消防団員を増やすことができるよう、ご協力をいただければと思います。

今後も皆様に親しまれる紙面作りに努力して参りますので、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。 広報紙編集委員長

富士市消防団広報紙編集委員会 委員長 長尾 文彦

- 団本部 第二方面隊長 長尾 文彦
- 副委員長 佐藤 重孝
- 団本部 副総務部長 佐藤 重孝
- 委員
- 第二十五分団 班長 鈴木 信一
- 第四分団 係長 前田 和徳
- 第十一分団 係長 石川 和彦
- 第十三分団 団員 福島耕一郎
- 第二十六分団 係長 斎藤 正道
- 第二十二分団 団員 斎藤 利和
- 第三十一分団 班長 神戸 邦明